

巻頭特集 今年も各地で人気魚種が好調スタート!

2008年初釣り 泣き笑い!



茨城県 大洗港出船...撮影◎本誌編集部

年の始めに大物ゲット 大洗沖のヒラメで 運をつかもう!



年の始めの一発勝負に臨んだ釣りは16名



スタート直後は手ごろなサイズが釣れた



ようやく手にした今年の初ヒラメ



▲ドラグを滑らせて慎重に巻き上げよう

ナギのいい日ならライトタックルでも楽しめる



▲定番外道のアイナメ。写真はオス。メスも釣れた

▶船宿仕掛けはハリス6号75センチ、捨て糸3号50センチ。オモリは60号を使用



▲マヅイも交じった。食味のよさはヒラメに負けず劣らず



▼エサのマイワシは体長15センチほど。大きすぎず、小さすぎずのジャストサイズだ

★2キロ級を手にしたのは小学5年の西将太くん。エサ付けから取り込みまで一人でこなしていた

年の始めにドーンと大物を手にしたい人におすすめなのが茨城県大洗出船のヒラメ。当地は昨年12月の県内全面解禁から1〜2キロ級が連日トップ5枚前後という手堅い釣れっぷりを見せていたが、喜れには6〜9キロ台の大ヒラメが釣れ始め、目下は一発大物狙いの様相を呈している。

大洗港の今年初出船日となる1月2日は大洗沖の25〜30メートルを狙い、最大で28キロと大ヒラメこそ出なかったが、シーズンはまだまだ中盤。今後大判含みで楽しめるはずだ。

写真は茨城県大洗港の第一東海丸にて(詳細は本文34ページ参照)



これも2キロ級。身は厚く、食べ応えも申し分ないはずだ

初釣が TARGET 4 2008 ヒラメ

茨城県大洗港出船 大洗沖 本誌編集部 村上洋竿

大洗沖のヒラメ釣り 気分的には乾坤一擲 我が悪運は今年も継続!?

絶好調とは言えないまでも、
アタリはボツボツ訪れた

私にとって初釣りはおみくじのようなものだと思ってる。釣れれば吉、たとえ不釣(凶)に終わっても、たまたま運が悪かったのだと諦めるようにしている。そんな私が今年選んだターゲットはヒラメ。いちかばちかという釣り物だから、運試しにもってこいだらう。

それが大洗沖では昨年末から95キ口を筆頭に5〜6キ口

台が連発しているという。運よく大判(大吉)を引き当てられれば最高の初釣りになるはずだ。大漁祈願のあといざ大洗沖へ!

1月2日に訪れたのは茨城県大洗港の第一東海丸。当日は両舷に8名ずつ、計16人乗船の大賑わい。初釣りはデカイヒラメで決めてやる! という気合が



苦戦する大人たちを尻目にヒラメを上げた西将太くん

船中にみなぎっていた。その気持が皆さんの持参していたタックルからも伝わってくる。定価5万円を超える最新ロッドがずらりと船べりに並ぶ様はなかなか壮観であった。

北條晃船長の舵取りで定刻の5時15分に出船。港の出口でエサのマイワシを積み込んで100メートルくらい走ると船は一旦停止。初出船恒例の大漁祈願を行う。大洗磯前神社と鹿島神宮の方向へそれぞれ拝礼し、お神酒を海に注いだ。

儀式が終了すると、船は再び南へと進んでいく。大洗沖ではないのですか? と尋ねてみたところ、大洗沖は数が期待できないから、アタリの多い大洗沖を狙ってみようとのこと。

水平線から朝日が顔を出したころにエンジンはスローダウン

ポイント

の見極めに入った。周囲には大洗港や鹿島港からやってきたヒラメ船が何隻も見受けられた。

投入の合図が出たのは6時半過ぎ。まずは配られた15センチほどのマイワシに落ち着いてハリを刺す。通常マイワシを用いるときは親ハリを口に刺し、孫ハリを肛門付近もしくは背中に刺すのだが、カタクチイワシと同様に孫ハリを刺さず、遊ばせておくのが第一東海丸ならではのエサ付け法。

各自の仕掛けが海中に入ると、船中をヒリヒリとした緊張感が包み込んだ。

だれが最初のアタリをとらえるのか……固唾を飲んで見守っていたけれど、しばらくはアイナメ1尾のみで本命のアタリは



なし。

船中の緊張をほくそくと、仲間さんはお神酒の残りを振る舞ってくれる。地元産タコの刺身も、おつまみとしてサーブスしてくれた。

お神酒の効果があったのか、まもなく船中最初のアタリが左舷2番の釣り人に到来。

「たぶんヒラメだよ! ゆっくり巻いてよ!」

そんな船長の声を受けて巻き上げると、やがて白い点のある茶色の魚が浮かび上がった。体長は30センチ強とかわいひヒラメだったけれど、本命であることは変わらぬ。釣り上げた方は満面の笑みを浮かべ、周囲の釣り人たちは次こそ私と闘志を

燃やす。

さて、この大洗沖で船長が流しているのはもっぱら根掛り。底タチを取り直すたびにオモリに重い岩礁が力チカチと当たってくるような場所ばかりだ。ただし海底と根の頂点との高低差がそれほどないため、オモリを海底から50センチくらい上げておけば、根掛りはまず起こらない。

「オモリが底を引きずるように」

して狙うのが好きな人もいるけれど根掛りでは一発で根掛かりするからね。それに大きなヒラメほど海底から上へと跳ね上がってエサを食べるから、むしろ高めのタナ取りがいいと思う」というのが船長のタナについての考えだ。

8時を過ぎたころから急にヒラメのアタリが多くなり、右舷の間と右ヨリ2番で1キ口弱が相次いで取り込まれた。

9時ころには右大ドモで1キ口級、胴の間で2キ口オーバーの良型が上がった。ヒラメ連発に船中のムードは高まってきた

が、まだまだ船長は不満らしい。「たしかに食いはよくなってきたかもしれないけど、もうちょっと風が吹いたり、潮が流れてくればより広範囲を探れるから、アタリも増えるはずなんだけどな……」

天気は晴天でほぼ無風。潮も0.1ノットとほとんど流れがない。ピンスポットを狙い撃ちし、アタリを拾っていくのが船長の作戦のようだ。

将太くんの健闘に大人たちも脱帽

そんな船長の作戦と釣り人の

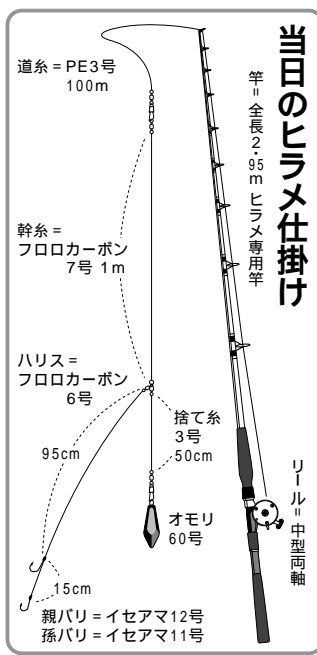
hint 私の仕掛けには1メートルの幹糸がけられているが、船宿仕掛けには幹糸はなく、三つ又サルカンに直接道糸を接続する。ハリスの長さは混雑時が75センチ、通常85センチ、長く取るとしても95センチまでとのこと。



今回ばかりはダメかと思ったが、将太くんの撮影中にコイツが引っ掛かってました。万歳!



初物はこうしていただきます!
ヒラメの手巻き寿司



釣魚でつくるおいしい料理30選レシピ集『大好評発売中!!』

根気が再び報われた。船中2人同時にアタリが訪れたのだ。

1人は小学5年生にして第一東海丸の常連という西将太くんもつ1人は私。

将太くんは小学2年のころからお父さんと2人で通っているよつで、船長からエサ付けや釣り方などを教わり、今ではヒラメ釣りのすべての動作を一人で問題なくこなせるようになってきたのだとか。

断続的にグイグイと引き込まれる愛竿はもろろん気になるけれど、小学生の健闘を見届けるほうが先。カメラ片手に将太くんに貼り付いた。

まもなく大きな引き込みが訪れたところで将太くんは竿を握り、巻き上げを開始。危なげないヤトリでタモに収まったのは2キ口級。落ち着いた動作と見事な型に、周囲の大人たちも脱帽といったところ。

ひとしきり撮影してから自席に戻ると、後検査12キ口がタモの中にゴロンと横たわっていた隣の釣り人によると、ちょうど将太くんと同じようなタイミングで引き込まれたらしく、仲乗りさんが代わりに巻き上げてくれたらしい。

この1枚を私が釣ったものとカウントしていいかどうかは微妙

茨城県・大洗港

第一東海丸

029-267-2297
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金 = ヒラメ乗合 1人12000円(エサ、水付き)

▶備考 = 出船5時半、駐車可、ほかマダコへも

北條晃船長